

人材養成目的

人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。

障害科学類

College of Disability Sciences

学士(障害科学)

■ Bachelor of Arts in Disability Sciences

学士(特別支援教育学)

■ Bachelor of Arts in Special Education

学士(社会福祉学)

■ Bachelor of Science in Social Work

人材養成目的

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

求める人材

人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約6割は、企業・教員・公務員など国内外で広く活躍しています。約4割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…障害科学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム

■他大学大学院…京都大学、お茶の水女子大学、立命館大学、上智大学

就職先の例

企業・団体

■福祉…LITATICO、パーソルダイバース、全国社会福祉協議会、高齢・障害・求職者支援機構・障害者職業センター、ニチイ学館、社会福祉法人福祉楽団、社会福祉法人南風会

■サービス…日本総合研究所、PwCコンサルティング、野村総合研究所、共同通信社、リクルート、横浜DeNAベイスターズ

■金融・保険…かんぽ生命保険、JCB、常陽銀行、群馬銀行

■情報・通信…日本エンタープライズ、日本GPSソリューションズ、インフォテック朝日、ソフトバンク

■流通・飲食店…そごう・西武、スターバックスコーヒージャパン

■運輸…全日本空輸、JAL エクスプレス

学校教員

■公立…北海道、青森県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、長野県、長崎県、三重県

官庁・自治体

法務省、法務省大阪矯正管区、中部地方更生保護委員会、東京都、神奈川県、茨城県、埼玉県、横浜市、さいたま市

教育の質の保証と改善の方策

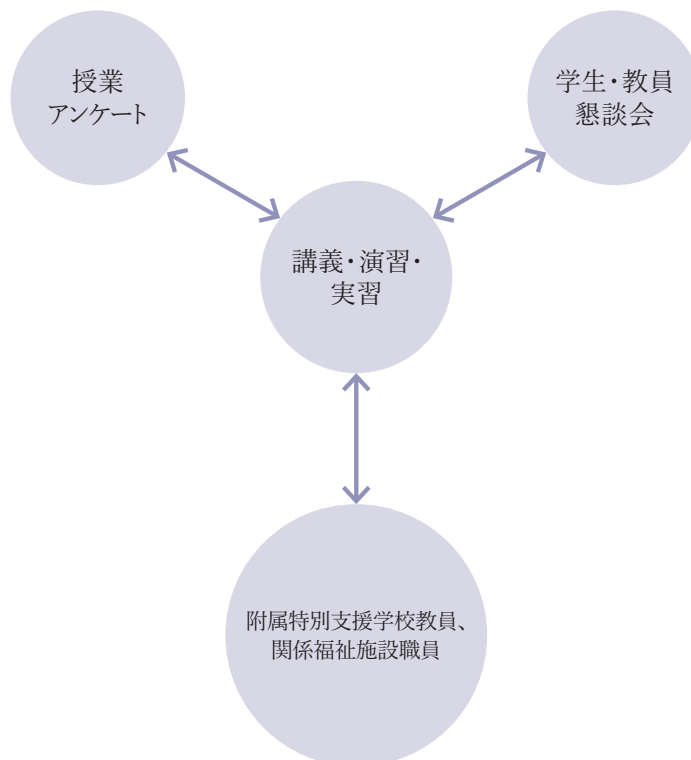
■授業アンケートを実施し、その結果を次年度の内容・方法に反映させています。

■年2回、障害科学類の全学生・全教員参加の懇談会を実施し、学習上の疑問や質問に答える場を設けるとともに、学年間の学生、教員のつながりも深める場としています。

■演習・実習の活動内容を含む授業では、附属特別支援学校教員などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を積極的に導入しています。

■全教員による卒業研究指導として、デザイン発表会、中間発表会、最終発表会を開催し、学生の研究能力の向上を図るとともに、卒業研究の質的保証を行っています。

教育力向上への取組



学士（障害科学）

Bachelor of Arts in Disability Sciences

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（障害科学）の学位を授与します。

■ 障害科学の全体的な理念・概念を理解し、障害科学に関連した障害教育、障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識と技能を修得している

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

■ 障害科学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力を持ち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力）

■ 障害科学に関連したリーダーシップにつながる基礎的能力を備えている

（関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力）

■ 障害科学に関連した英語等外国語力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力）

教育課程編成・実施の方針

学士（障害科学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

学類の基本的な履修形態として、障害や障害者に関する幅広い知識を身につける「障害科学履修モデル」を設定しています。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。

順次性に関する方針

■ 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。

■ 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各

専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

■ 3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得

障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

実施に関する方針

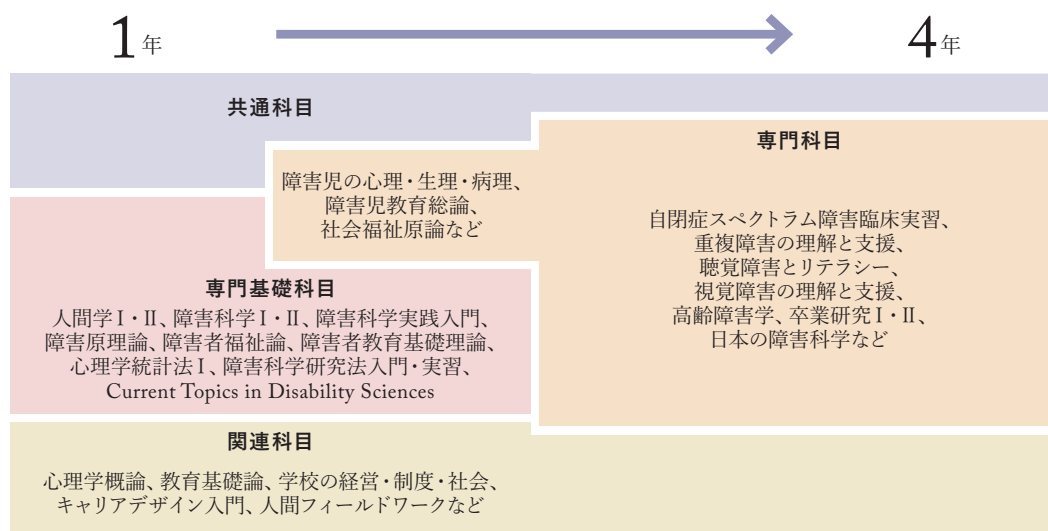
障害科学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。

演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、

障害科学履修モデル



学士（障害科学）

Bachelor of Arts in Disability Sciences

学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

特色

■「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

■海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

学士（特別支援教育学）

Bachelor of Arts in Special Education

■ 学位授与の方針 ■

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（特別支援教育学）の学位を授与します。

■ 特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担うことのできる専門的知識や技術を修得し、特別支援教育学に関連した生理学・心理学についての基礎的理解を備えている

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識）

■ 教職などの専門職に採用される水準の能力を備えている

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

■ 特別支援教育学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力をもち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力）

■ 特別支援教育学に関連したリーダーシップにつながる基礎的实践能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力）

■ 特別支援教育学に関連した英語等外国語力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力）

■ 教育課程編成・実施の方針 ■

学士（特別支援教育学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指す「特別支援教育学履修モデル」を設定しています。特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、広い教養と深い専門性を身につけます。5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の全てを担当できる特別支援学校教諭免許状を取得することもできます。

順次性に関する方針

■ 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により特別支援教育学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では附属特別支援学校などの実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して特別支援教育学の基礎を理解します。

■ 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」等で各専門の基礎を学び、障害別の「指導法」等から基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学修します。「キャリアデザイン入

学士（特別支援教育学）

Bachelor of Arts in Special Education

門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

■ 3～4年次…特別支援教育学の研究・実践技術の修得

特別支援学校教諭免許状取得に必要な専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を修得します。「特別支援教育実習」（附属特別支援学校での教育実習など）を通じて基礎的实践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や特別支援教育学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

実施に関する方針

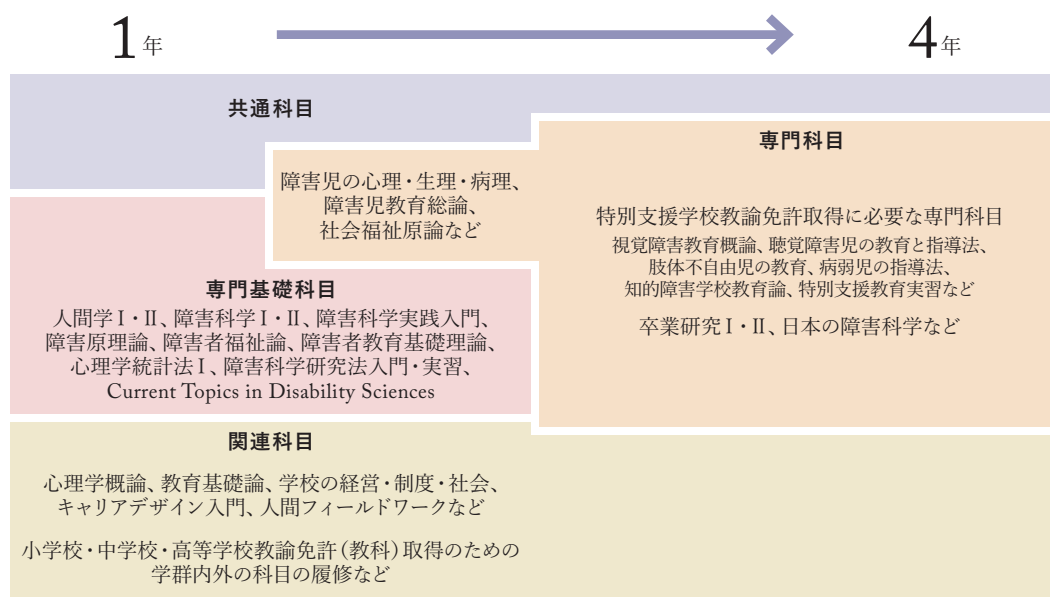
特別支援教育学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要とされる単位を修

得し、あわせて小、中または高の教職課程の単位を修得することにより、特別支援学校教諭免許取得が可能です。演習・実習系の授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を

特別支援教育学履修モデル



行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

特色

■「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

■ 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

学士（社会福祉学）

Bachelor of Science in Social Work

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

■ ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を理解し、社会福祉学に関連した生理学・心理学・教育学についての基礎的理解を備えている

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識）

■ 社会福祉士国家試験に合格する水準の能力や福祉行政などの専門職に採用される水準の能力を備えている

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

■ 社会福祉学に関連した理論と実践について、包括的かつ科学的に探究し実践できる専門的知識や技術、研究能力を修得している

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における分析的思考力）

■ 社会福祉学に関連したリーダーシップにつながる基礎的実践能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力）

■ 社会福祉学に関連した英語等外国語力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力）

教育課程編成・実施の方針

学士（社会福祉学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。

順次性に関する方針

■ 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により社会福祉学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して社会福祉学の基礎を理解します。

■ 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目を中心に、「社会福祉原論」、「医学概論」、「高齢者福祉論」等で専門基礎を、「相談援助の理論と方法」、「相談援

助の基盤と専門職」で基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」、「社会福祉調査論」では研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じ、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

■ 3～4年次…研究・実践技術の修得

「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学びます。「ソーシャルワーク実習」等において基礎的实践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害福祉学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

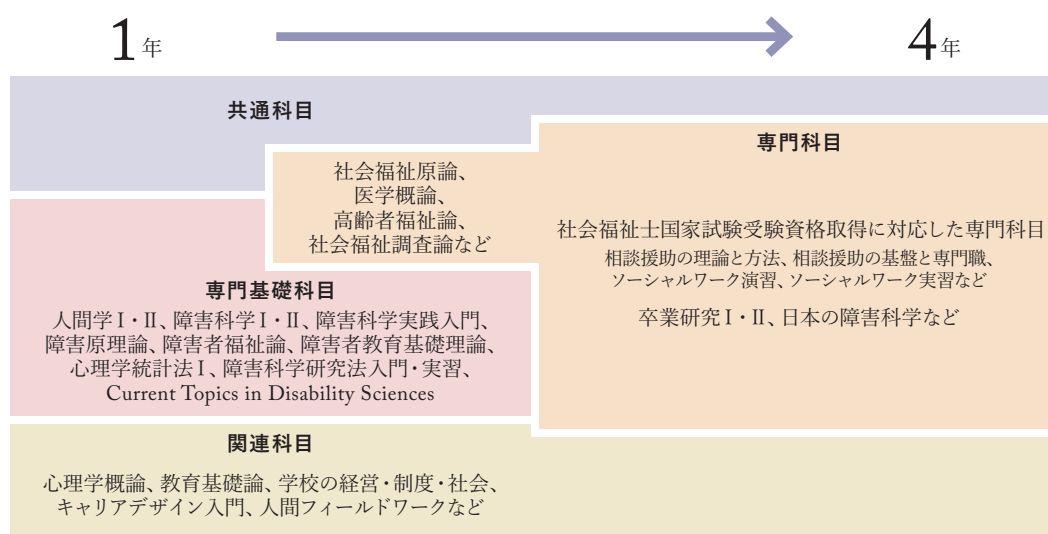
実施に関する方針

社会福祉学履修モデルに基づき、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、社会福祉士国家試験受験資格取得が可能です。授業は参加型の形態をとる一方、福祉施設などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を

社会福祉学履修モデル



学士（社会福祉学）

Bachelor of Science in Social Work

行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

特色

■「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

■海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。